校訓 渾身勉学 白鳥蘆花に入る

学校教育目標
夢に向かって、気づき・考え・行動する 児童の育成

白鳥

令和８年度
千代田東部小学校学校だより
NO.13
令和８年 6月 26 日
文責 筒井 学

「次郎集会」6月14日（日）

プログラム② 3.4年生「次郎の歌」



みんな口がよく開いていて、きれいな歌声でした。正義感が強くて、何事にもまっすぐに一生懸命に取り組む次郎の心が十分に表現されていました。

プログラム③ 1.2年生 「次郎かるた」の紹介



とても元気に大きな声ではっきりと読む姿が立派でした。次郎物語のいろいろな場面が目に浮かぶようでした。



プログラム④ 5年生 次郎クイズ



次郎とのふれあい遠足で学んだことを楽しく思い出させてくれるクイズでした。たくさんの人が手を挙げて答えようとしていました。

プログラム⑤ 6年生 劇「次郎物語」

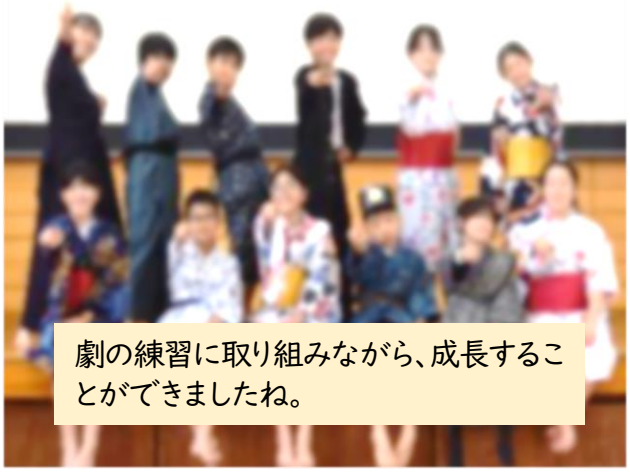


当日の体育館では、「佐賀県一、いや日本一かも。」と、話しましたが、今でもその気持ちは変わっていません。豊かな表現力に感銘を受けました。

どうして、あんなにすばらしい劇ができたのか知りたくなったので、後日、6年生の教室に行ってみました。「本番までみんながどのようにがんばったのか教えてください。」「演技のプラスになったと思うことはどんなこと?」と、尋ねると、以下のような答えが次々に返ってきました。

「お父さんの次郎への愛情を考え、言葉のかけ方を工夫しました。」
「『楽しむのとふざけるのは違うよ。』と先生が教えてくれました。」
「他の人の様子を見て参考にしました。」
「お母さんの気持ちを一緒に考えました。」
「演劇部のお兄ちゃんの演技を思い出してがんばりました。」
「声の大きい人がまわりを引っ張っていました。」
「声が出るよう気合いを入れました。」

一人一人が自分なりに試行錯誤し、最終的にはクラス全員がお互いに高め合っていった様子が伝わってきました。さすが、最上級生。**劇の成功という夢に向かって、気づき・考え・行動する**ことができました。



劇の練習に取り組みながら、成長することができましたね。